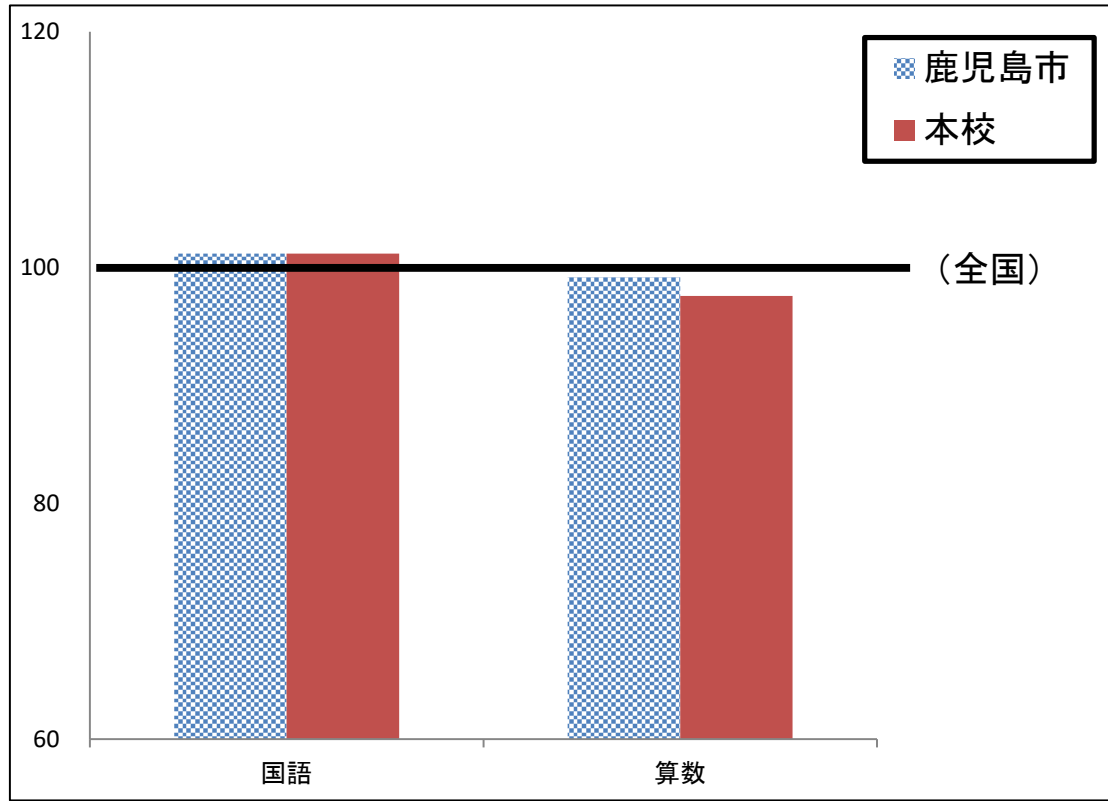


1 自校・市・全国の平均正答率の比較

〈 全国平均正答率を100とする棒グラフ 〉



2 自校の課題に対する改善策

〈国語〉

「書くこと」「読むこと」については、平均正答率は全国より高い傾向にあります。「話すこと・聞くこと」については、全国平均とほぼ同じです。内容としては、必要なことを質問しながら聞くと、「話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」ことや、「文章の内容や特徴を捉える」ことの正答率が低い傾向になります。

この結果を踏まえ、文章の要旨を捉えてまとめる活動を取り入れたり、グループやペアの話し合い活動で、相手の話の内容を最後まで聞き取り、大切なことは復唱しながら交流したりするなど、キーワード等を意識しながらまとめる活動等に取り組んでまいります。

〈算数〉

領域としては、「変化と関係」「データの活用」については、全国平均とほぼ同じです。「数と計算」「図形」の領域については、全国平均をやや下回ります。特に、台形や正三角形の意味や性質を問う問題や、()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取る問題等に課題が見られました。

この結果を踏まえ、まずは、分数や小数、()などを用いた四則計算を解く機会を増やして習熟を図っていきます。また、台形や正三角形、平行四辺形、正方形、長方形、ひし形等、図形の性質を理解させるために、図形の単元等で復習したり、視覚的に捉えられるように学級の掲示物の工夫をしたりして、課題の克服に努めてまいります。

〈全体的に〉

児童質問紙の結果から、「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に、約4分の1の児童が、「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」の回答をしています。また、「困りごとや不安を、周りにいる大人にいつでも相談できますか」の質問に、約45パーセントの児童が、「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」の回答をしています。自己肯定感を高め、自信をつけていくためにも、周りの大人のが言葉かけ等意識して行い、

まずは、信頼関係をしっかりと構築していく必要があると思われます。さらに、児童の頑張りや成長をしっかりと見届け、称賛を繰り返していくことが、自己肯定感を高める手がかりになると考えます。

また、「国語は好きですか」「算数は好きですか」の質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は、それぞれ、約50パーセントでした。しかし、ほとんどの児童が、「国語・算数の勉強は大切である」と回答しています。国語・算数については、課題をしっかりと克服し、基礎的・基本的な学習内容を定着させていけば、少しずつ自信がつき、「好き」の割合が高くなっていくと考えられます。

自己肯定感も低く、分からないことを、「分からない」と伝えることのできない児童が多いようです。学校でも上にあげた課題克服に取り組んでまいりますので、ご家庭でも、家庭学習の見届け等を通して、言葉かけや称賛をお願いします。